

移植木選定・移植の穴掘り

日時 10月22日 金曜日 晴れ

作業 移植木の選定と移植作業を効率的に進めるため事前作業として穴掘りを予定地で行う。

〔移植を待つ木〕



エゾマツ仮植地



ミズナラ(森の巨人)の下で同じDNAを持つ稚樹



ミズキ

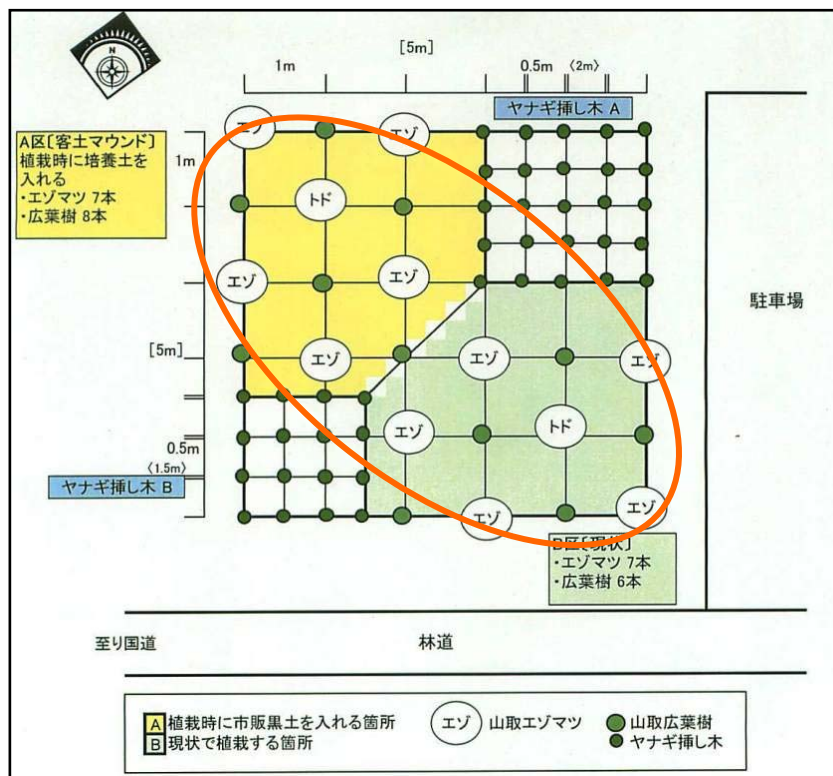


ハンノキ



イタヤカエデ

〔山取苗移植地〕



山取苗移植地〔南西向きに撮影〕

直径×深さ(300mm×300mm)、1000mm間隔に上記赤丸箇所(24個)の穴を掘る



穴の状態



東 → 西の様子

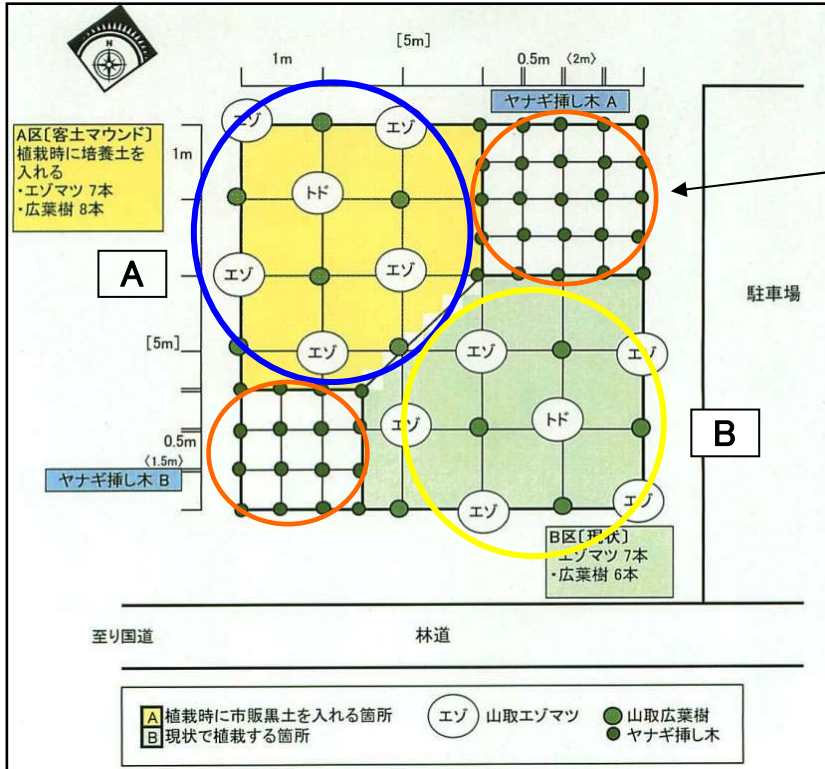


北 → 南の様子

山取苗移植

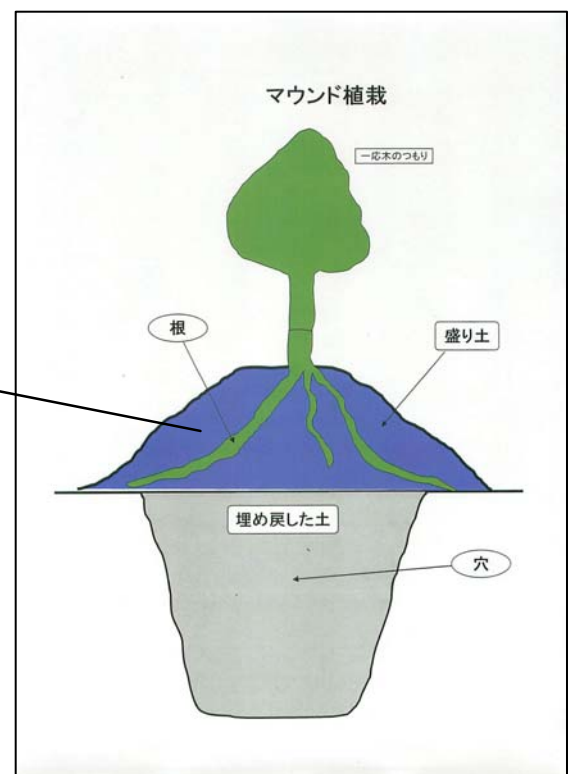
日時 10月25日 月曜日 晴れ
作業 山取苗移植及びミミズ繁殖地づくり

土場跡地に窪地を確認
先駆樹種としてヤナギを挿し木して将来、天然更新を期待する。



ヤナギ挿し木
対角する箇所は水が溜まる所であることから周辺に自生するヤナギを挿し木し湿地性の適地適木とする。先駆樹種として育成を図る。

成長対比区
土壌が踏み固められた土場跡地で若干全体的に周囲より低くなり融雪時等で水が溜まりやすくなっている。また、山取苗は生育は良くない傾向があるのでA区、培養土と混ぜ合わせ山状としたマウンド植栽とした。一方、B区は現状で植栽した。(下図参照)



元々あった土と培養土を混ぜ合わせて埋め戻しマウンドにして植栽する



マウンド植栽した様子。中央手前、イタヤカエデ

〔山取苗採取〕



山取苗採取の様子

〔移植の様子〕



穴に収まる苗

穴に様子

穴から上げた土と培養土を混ぜ合わせる作業は少し手間がかかる。



休憩の一瞬



散水する
春木先生





移植作業終了

記念撮影。霧がかかり今にも雨が降りそうだ。手前が移植した苗、黄・黒の虎テープは苗木印用。

次は

〔ヤナギ挿し木作業〕



挿し木間隔は500mm



挿し木サイズ・本数

周辺で自生するヤナギから長さ150mm程度、径10mm～20mm以下のヤナギ挿し木を斜めにカットして25本採取。

挿し木A、25本。Bは16本を挿し木を実施。斜めに挿すことで芽は真直ぐ出て伸びるが今回は、それを無視して挿した。

真直ぐ挿したことで寝曲がり状に芽が出て伸びていくことだろう。



挿し木間隔

挿し木する箇所は簡単な地拵えをおこない、500mm間隔で挿していく。

コウモリガの幼虫

ヤナギにはコウモリガの幼虫がつき鳥が寄ってくるようだ。また、エゾシカは餌として萌芽を好んでいるようなので監視が必要だ。



挿し木4×4ヶ

山取苗添え木作業

日時 10月25日 月曜日 晴れ

作業 山取苗添え木

周辺の土場跡地に植栽したと思われる2m以下のエゾマツ造林地では上木や灌木・笹がないためなのか積雪により変形樹木が多数見られる。

なお、ミズナラ幼樹は融雪時期に凍った雪が気温の上昇とともに融解し移動するときに枝等に損傷を与える場合もある。

積雪等から守る保護対策

山取苗として植えた樹木をたて木として扱い、たて木の下へ現在育てている実生苗を将来、樹下植栽する。

上木があることで積雪・気象害等から保護することを目的として実施した。

《地域のもりから学ぶ森林づくり》

活動地周辺の森林を観察することで現場で起きている現象に気づくことがある。
ここから先人は多くを学んできた。



〔添え木作業〕
笹100cmを三本立て苗木を
二箇所で加減しながらテー
プで結束する。



右手前はヤナギ挿し木箇所



市民とトドマツを結束中



〔添え木終了〕
今度は来年融雪後の六月に諸君と会おう。
写真左は130cm程度のトドマツ山取り苗。



〔山取り苗ミズナラ〕
今まで周囲の笹や樹木に守られてきた幼樹。
積雪などに負けないで頑張り耐えてほしい。



〔山取り苗ハリギリ〕
ハリギリは根付きの難しい樹種、上手く成長することを願う。

〔作業終了した1コマ〕

- ・右側、森林づくり活動地の約三分の一が見える。手前、山取り植栽地、右に笹地と歩道、右上は活動地内にある樹木。
 - ・左に林道。
- その左側には、ハリギリを主体とした天然木の樹下にアカエゾマツを植栽した造林地が見える。
- ・ここは「水源の森林」であると同時に資源の循環利用林でもある。
- 木材は唯一、持続性のある天然資源。上手に利用しよう！

